

第6学年1組 国語科学習指導案

【日時】令和7年7月23日(水) 10:20～11:05 【場所】多目的室1・2 【指導者】中尾 通孝

本授業の参観の視点

「宣伝動画づくり(第一の没頭)」の「あらすじ」や「キャッチコピー」を考えるために、文章の山場や構成、主題、象徴を考える(第二の没頭) 児童の姿をご覧ください。

1 単元名 映画『海の命』の宣伝動画をつくろう(光村図書『海の命』6年)

2 単元の構想

(1) 単元について

本教材の「海の命」は、憧れる父を幼くして失った主人公の太一が、父が死んだ瀬で一本釣り漁師として暮らす中で、与吉じいさや母との関わりから命の尊さを学び、真の「村一番の漁師」へと成長する話である。物語の筋としては、山場がはっきりと描写されて構成が分かりやすい作品である。しかし、その内容は曖昧で複雑で、主題をどのように解釈するかということでは意見が分かれる。「興奮」と「冷静」、「泣きそう」と「ほほえむ」などの小さな対比から、父と与吉じいさの生き方などの大きく構造的な対比まで、大小多く用いられている。更に、「緑の目・金色・青い宝石の目・黒いしんじゅ、灰色のくちびる」などの色表現、「二メートル、五十センチ、二十匹、千匹に一匹、二十キロ」などの数の表現、「父が死んだ瀬、太一の海」などの場所の表現に特別な意味が含まれる。これらの、色、数、場所などの表現に気付いて想像し、つながりや関係性を考えて解釈することできる作品である。このように文学的文章教材の主題や象徴について、叙述を基に考えることに適した教材である。

(2) 児童について

本学級の児童は、文学的文章教材『帰り道』の学習では、『帰り道』が書籍化!!どんな表紙にする?という単元設定で、一人ずつ表紙をデザインし、互いに見合う活動をした。表紙のデザインに含まれるものから、登場人物である周也と律の異なる視点から描いた文章構成や「場所」「天気」「距離」「物」に含まれる意味の重層性などについて学習した。説明的文章教材『時計の時間と心の時間』では、『時計の時間と心の時間』のプレゼンシートをつくろうという学習をした。単語、文、文章に含まれる「因果」「包含」「順序」「比較」などの関係を図に表すことで、文章の概要をつかむだけではなく、比較されていること、大きな概要を述べている部分と詳細を述べている部分、前までのことをまとめて書かれているところ、事実と主張などに意識を向けることができた。しかし、図化する活動が、時間内に終わらずに段取りや見通しが適切にできていない児童がいる。言葉の資質・能力である比喩表現や象徴について理解を深めること、学び方の資質・能力として、文章を絵や図に表すために、4～5時間程度の学習を段取りして見通しをもって活動することが、育むべき次の学習の課題である。

(3) 指導について

本単元では、「映画『海の命』の宣伝動画をつくろう」という言語活動を設定し、グループ毎に『海の命』が映画化された場合の宣伝用動画を作成することを目的としている。グループでの活動にすることで、児童間での回遊の場面を増やし、互いに価値付け、自分の考えの根拠や理由を考えるという俯瞰の機会を生み出すことを意図している。また、一次で「段取り・見通し・計画」する時間を設け、二次で自分たちで計画を見直しながら活動する時間を設定し、学び方の資質・能力を育むことをねらう。

指導に当たっては、第一次において、活動内容を知り学習の計画を立てる時間を設定する。実際の映画の宣伝動画を提示し、児童が、絵や動画、BGM、あらすじ、キャッチコピーなどが含まれることを整理して、宣伝動画をつくるためにどのようなことが必要かという「段取り」ができるようにする。さらに、「段取り」した内容を順序立てる「見通し」の時間を設定する。次に、BGMのアプリの使用方を一斉に指導する。BGMについては、音楽生成AIを用いる。物語の内容にふさわしい音楽をつくるためのキーワードを考えることは、中心となる言葉や主題について考えることにつながる。そのキーワードをワークシートに記録として残し、教師や周りのグループと話し合いを行いやすくする。第二次では、場面絵の選択や制作、あらすじ、キャッチコピーなどの制作活動を児童の計画によって進めていく。場面絵の絵については、物語のあらすじや山場、構成などが絵の並びや組み合わせで表現されると考える。絵本『海の命』の絵は表紙を入れて18枚(教科書は8枚)である。また、あらすじ、キャッチコピーでは、文章での表現を用い、物語のあらすじや象徴、主題などが表現されると考える。助詞や助動詞、言葉、比喩表現について問うことで、主題や象徴に関わる、文章中の内容(根拠)や自分なりの経験(理由)を引き出す。また、最近のネット社会の発展が目覚ましい中で、動画づくりを経験すること、生成AIの利用や動画制作で気を付けることを学ぶという、広い領域での回遊を促し、動機付けだけではなく、新たな学びを増やすことも期待している。第三次では、出来上がった互いの作品を見合いながら、絵や動画、BGM、あらすじ、キャッチコピーなど、表現の意図や表現の工夫について話し合う。

(4) 期待する「回遊する学び」について

本単元における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付け、下記のように整理する。

ステージD 「実生活・実社会」

・宣伝の動画を作るためには、BGM、場面絵の選択や制作、あらすじ、キャッチコピーなどを準備する必要がある。どの順番でしようかな。



協働して作品をつくり上げる際に、計画性をもって話し合い、妥協したり主張したりしながらつくり上げていく。【学びに向かう力、人間性等】

→ 単元の最初に計画を考える時間を設定し、見直すように促す。

ステージC 「他教科」

・命の大切さ、葛藤、成長などを表す音楽はどんなものがいいかな。
・18枚の絵本の絵からどの絵をどの順番で、どう組み合わせようかな。



動画作成に必要なBGM、絵の背景の模様や色について、文学的文章教材の主題や象徴などについて考えている。(音楽科「テンポ・リズム・旋律・曲想」図画工作科「場面絵、背景の色・模様」【思考力、判断力、表現力等】)

→ 動画のBGMや絵の背景の模様や色などの根拠や理由を問う。

ステージB 「同教科」

・「おとう」と「与吉いさ」は全く逆のような気がするな。比較するように絵を並べてみようかな。



文や文章中に含まれる「①順序・因果、②比較・対立、③往復・往還④包含関係」などを考えながら、文や文章を説明する図をつくる。(国語科「説明的文章教材」【思考力、判断力、表現力等】)

→ 動画の絵の配置、順序などの根拠や理由を問う。

ステージA 「同単元・領域」

・「おとう」が死んだ瀬、「おとう」の海にはどんな意味が込められているだろうか。
・ニメートル、二十匹、五十センチ、二十キロの数がよく書いてあるな。



文章構成、物や場所、色、数に効果や意味、2つの言葉の共通性からつなげて考え、文章を解釈する。(国語科「文学的文章教材」【思考力、判断力、表現力等】)

→ 動画の絵・あらすじ・キャッチコピーの根拠や理由を問う。

単元のゴール：
映画『海の命』の宣伝動画をつくろう

本単元の「回遊する学び」に関しては、ステージDの宣伝動画づくりの活動の中に、職業観、計画・実行能力などの学び方の資質・能力が多く含まれる。同時に、生活の中の文化に位置付く言葉の資質・能力を考えながらステージA・B・Cの学びに進むことができる。宣伝動画の中には、ステージC（BGM、場面の絵の選択や制作）、ステージA・B（あらすじ、キャッチコピーなどの制作活動）に言葉の資質・能力が含まれる。場面絵、あらすじ、キャッチコピーなどについて問うことで、物語のあらすじや山場、構成、言葉や助詞、助動詞、比喩表現、主題、象徴に関して文章中の根拠や自分なりの経験の理由を引き出していく。

3 単元の目標と評価基準

(1) 単元の目標

自分たちの計画に沿って、宣伝動画づくりのために、『海の命』について、登場人物の相互関係や心情、語句などの描写を捉え、構成や叙述について自分で考えながら読み、BGM、場面絵、あらすじ、キャッチコピーなどに表すことができるようにする。

(2) 評価規準

ア 登場人物の相互関係や心情、オノマトペ、場所、色、比喻表現などの語句、文章の構成に着目して描写を理解している。【知識・技能】

イ 作品の主題や設定、世界観について理解を深めるために、場所や色、物、数に複数の意味が込められていることについて、自分なりの考えをもつことができる。【思考・判断・表現】

ウ 宣伝動画づくりの活動を通して、どのような準備が必要か何にどれくらいの時間をかけるかを自分たちで考えて活動し仲間と意見をすり合わせながら活動している。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元の指導計画（全8時間 本時5／8時間目）

次	時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】	評価
一	1	○実際の映画の宣伝動画を見ながら必要な要素を整理する。	・児童が自己決定できる活動を取り入れることで、自分事として活動しながら第一の没頭に入るようにする。	◆宣伝動画づくりのために、絵や動画、BGM、あらすじ、キャッチコピーなどが含まれることが分かる。【知・技】	A B C D
	2	○『海の命』を読み、グループで話し合いながら宣伝動画づくりの段取り・見通し・計画をして準備する。	・ワークシートに記入させることで、「段取り」「見通し」「計画」についてよい方法を価値付けて共有化して俯瞰することを促す。	◆宣伝動画づくりのために、仕事内容を考えて、役割分担や計画を立てている。【主】	
二	3	○『海の命』のイメージのキーワードを音楽生成AIに入力し、BGMを作成する。	・音楽生成AIに入れようと思ったキーワードをワークシートで記録させ、児童の交流を促す。	◆BGMを作成のために、音楽生成AIに入るキーワードを吟味している。【思・判・表】	A B C D
	4	○『海の命』の場面の絵について、あらすじや山場、構成などを考えながら、絵の並びや組み合わせを決定する。	・山場の「興奮と冷静」「泣きそうとほほえむ」などの対比、「おとうと与吉いさ」の比較など、構造的に表現した作品について問い自覚化を促す。	◆山場の言葉や登場人物の構成を考え、太一の悩みについて考え、場面の絵を決定している。【思・判・表】	
	5	・あらすじや山場、構成を考えて、10枚の絵を考える。	・分からない言葉や表現、疑問に思ったことを板書に残すことで、必要に応じて黒板前で議論したり、皆で話し合っ	◆分からない言葉や内容について、調べたり話し合ったり、推測したりしている。【知・技】	
	6	・登場人物の関係を考え、絵を配置する。	て解決したりできるようにする。	◆キャッチコピーや文章として表す中で、単語や助詞、文の内容について根拠や理由を明確に考えている。【思・判・表】	
	7	○『海の命』の場面の絵に合わせて、物語の設定やあらすじについてどのように紹介するかを考える。	・文章化された物語の設定やあらすじについてや、単語、助詞、文について問うことで、①どのような見方・考え方をしたのか、②自分の経験からどのように理由付けをしたのか、③文章のどの部分を根拠としたのかについて、再度考え直す時間を設けたり、自覚化を促したりする。	◆自分の意見を黒板に記入したり、黒板のアイデアを生かしたりしながら粘り強く言葉について考えている。【主】	
	8	・登場人物の関係を考えながら、物語のあらすじに重要な人物を選び説明する。	・文章化されたキャッチコピーについて、単語、助詞、文について問うことで、見方・考え方、理由、根拠について問いながら自覚化を促す。	◆キャッチコピーを考えながら、この物語の主題や象徴となるものについて考えることができる。【知・技】	
三	7	○『海の命』の主題や象徴を考えながら、魅力的に伝えるための文章やキャッチコピーを考える。	・没頭と俯瞰の機会を見ながら、よいアイデアがある場合は、板書に記入したり、児童と児童をつなげたりし共有化を促す。	◆計画を振り返りながら、今後の活動を修正している。【主】	A B C D
	8	・題名「海の命」について考えている。	・「おとう、ここにおられたのですか」を考えている。	◆友達	

5 本時の指導（5／8）

(1) 指導目標

文章構成、物や場所、色、数の表現、意味の重層性などからつなげて考え、絵や動画、あらすじ、キャッチコピーなどを作成するために、話し合いながら読みを深めることができるようにする。

(2) 評価規準

イ 文学的文章教材の見方から、正しく内容を把握するとともに、物や場所、色、数の表現、意味の重層性などから色々と想像し、味わいながら読むことができる。 【思考・判断・表現】

(3) 展開（波線部は「回遊する学び」に関わる姿とその手立て）

学習活動と児童の反応（〔 〕）	教師の働きかけと形成的評価（◆）
1 前時の学習を振り返り、本時の活動の計画を確認する。（2分）	1 前時の続きとなるので、出てきた課題の確認を短時間で行い、児童の活動に入ること、個に応じた指導の時間を増やし、児童が考え没頭する時間に入れるようにする。
めあて 映画『海の命』の宣伝動画をつくろう。	
2 『海の命』宣伝動画づくりを行う。（28分）	2-(1)活動を始めてすぐは、全体が見える場所から状況を把握し、活動に向かうための解決策を考え、早めに活動に向かえるようにする。（D） 2-(2)没頭しているグループに関しては、共感しながら活動を把握し、大きな間違いがなければ早めに提案や指導を行い、軌道修正を促す。（D） 2-(3)本時の活動の課題となることを各グループで問うことで、学習のねらいについて児童が意識できるようにする。（AB） 2-(4)グループの中で出てきたアイデアや課題を板書するように促し、共有化の布石とする。
【全グループ共通】 ・「はばかりない」「共鳴」「甲板」「屈強」ってどういうことだろう。国語辞典で調べてみよう。	◆ 宣伝動画づくりのために、登場人物の言動や色、物、数、場所についてつながりを整理し、意味の重層性、象徴、主題について考えることができる。（観察）【思・判・表】 B 登場人物の言動や色、物、数、場所について、意味の重なりがあることを考えることができる。 C→ 教師が登場人物の言動や色、物、数、場所について質問をすることで、考えるきっかけをつくる。
【場面の絵について考えているグループ】 ・太一、おとう、与吉じいさ、村の漁師、母、村のむすめ、子ども4人の中で、だれを紹介したほうがいいのか。 ・父は「じまんすることがなかった」のに、潮の流れが速くて、だれももぐれない瀬にもぐるような危険を冒していたのは、なぜだろう。 ・与吉じいさは、なぜ20匹で漁を辞めてしまうのかな。	
【あらすじについて考えているグループ】 ・どうして与吉じいさの弟子になったのかな。 ・太一が鼻づらに向かってもりをつき出したとき、なんだか迷っているけど、何と何で迷っていたのかな。	
【キャッチコピーについて考えているグループ】 ・2メートル、20匹、20キロ、150キロ数がたくさん出てきているけど、20は興味もてないという意味か。それでは、太一は与吉じいさをどう思っていたのだろう。 ・太一の兄弟はいなくて、太一の子どもは4人、どうしてこんな設定にしたのかな。	
3 話し合いを受け、修正したり、次の活動に入ったりする。（15分）	2-(5)活動が停滞した場合、または、多くのグループが同じ課題を考えているという話し合う機会が生じた場合、活動を一度止め全体で話し合う。（AB） 2-(6)学習の前半に質問した内容や途中児童から出された疑問について、どのように解決したか、理由と根拠を問いながら学びを俯瞰させていく。 2-(7)俯瞰させた内容について、称賛したり、次の活動に繋がることに気付かせたりすることで、さらに、没頭して活動に取り組めるようにする。
・場所に意味があって与吉じいさの弟子になったのであれば、与吉じいさとおとうの関係を考え直さないといけないね。 ・少し遅れているから、キャッチコピーをそれぞれ考えて来ようね。	3-(1)次時以降へ学習意欲を継続し没頭して取り組めるように、机間指導をしながら、「言葉の資質・能力」に関する学びと「学び方の資質・能力」に関する学びのそれぞれを児童と共に、振り返り価値付けられるようにする。（ABD） 3-(2)振り返りの時間を一単位時間の最後だけと考えず、活動の途中でも自分たちの活動を俯瞰し価値付ける。（ABD）